

第2回 長崎南北幹線道路ルート選定委員会 (委員からの主な意見)

R1. 11. 27 都市政策課

1. 前回のまとめと意見への対応

- 特に意見無し。

2. ルート選定の前提条件について

<結果>

- ルート選定の前提条件については了承。

<主な意見と回答>

- 滑石にICを設置することで、佐世保からの交通が滑石で渋滞しないのか。
⇒時津から茂里町以南までの通過交通が約1万台見込まれており、滑石からの7000台を加えても十分処理できると考えている。
- 西彼杵道路のIC設置間隔と、滑石にICを設置する場合のIC間隔と整合が図られるか。
⇒ICの最小間隔は1.5~4.0km程度であり、整合している。滑石エリアは多くの方が居住されており、交通の発生・集中が見込まれているので、設置する効果は高いと考えている。
- 茂里町での乗り入れ(IC)はどうか。
⇒現在の浦上川線から分岐する形となる。茂里町での交通の状況などから整理する必要があるが、片方が浦上川で反対側は大きな建物が連なっている状況であり、現在の道路幅内での設置を検討する必要がある。
- 余裕をもって4車線で整備してはどうか。
⇒4車線で整備した場合、南北方向交通容量の不足に対して過大となる。また茂里町の道路は4車線しかなく、4車線の長崎南北幹線道路を接続するのは物理的に難しい。
- 長崎南北幹線道路の将来推計交通量は、川平有料道路からの転換を考慮しているのか。
⇒川平有料道路からの転換も含めて、長崎南北幹線道路の将来交通量推計を行っている。

3. ルート2次選定について

<結果>

- B区間(中央部)は、第3案が最良との結論となった。
- C区間(終点側)は、ルート帯が限定されており、ルート比較を行わない(1ルートのみ)ことが了承された。
- A区間(起点側)は、第1案(右岸)第2案(左岸)の両案について意見を得た。今後の意見交換会の意見も踏まえ、県においてさらなる検討を行ったうえで、第3回委員会で具体的なルート帯を選定することとなった。

<主な意見と回答>

- B 区間第 3 案でトンネルの勾配はどれくらいか。急勾配にならないか。
⇒標高の関係で茂里町から時津までは約 4%の上りが続く計画となる。
- B 区間第 3 案でトンネルの分割を検討する場合、避難通路の設置基準への適合や工事費の問題だけでなく、安全性の確保という点でも問題ないという整理が重要である。
- トンネル掘削により、地下水への影響はないか。
⇒事前調査を行ったうえで施工する。施工中も調査し、必要な対策を行う。
- A 区間で、浦上川の上（中）を通せないのか
⇒河川内に橋脚を設置することは不可能で、河川をまたぐ門型橋脚を設置する工法などは考えられるが、河川法との整合や技術的・経済的な可能性は今後検討する。
- 移転が生じる第 1 案（右岸）では、建物の多くが支障し、それぞれの生活があり時間がかかると思う。第 2 案（左岸）より住民への影響が大きい面が危惧される。
⇒その課題は認識しており、ほかのルートも含め、さらに検討を行い次回お示ししたい。

4. 地域住民との意見交換会について

<結果>

- ルート選定における位置づけや目的、内容については特に意見無し。

<主な意見と回答>

- 長崎南北幹線道路は西彼杵道路と一体となった広域的な道路であるから、意見交換会では長崎南北幹線道路だけではなく、全体的な（広域的な）説明も行ってほしい。